

令和 4 年度地域経済産業活性化対策調査事業
(中国地域における SDGs 経営推進事業)

事業報告書

2023 年 3 月

経済産業省 中国経済産業局

(委託先：株式会社日本能率協会コンサルティング)

目次

1. 事業の概要	2
1.1. 事業の背景・目的	2
1.2. 事業の内容	2
1.3. 実施スケジュール	3
2. 中国地域における SDGs 経営推進事業	4
2.1. SDGs 経営の実装のためのワークショップの開催	4
2.2. SDGs 経営を推進するためのシンポジウムの開催	9
2.3. SDGs に関するセミナーの開催	12
3. まとめ	17
3.1. 実施結果	17
3.2. 今後に向けた提言	18

1. 事業の概要

1.1. 事業の背景・目的

国連での SDGs 採択から 6 年が経ち、中国地域においても SDGs に関する認知度は大きく高まり、ESG 投資の拡大なども受けて SDGs が企業経営に浸透しつつある。

しかし、大企業と中小企業では依然として取り組みに大きな格差があるという調査もあり、SDGs といっても具体的に何をしたらいいのか分からないといった中小企業からの声も多いのが現状である。

そこで、以下を目的に事業を実施した。

- 中小企業の経営戦略に SDGs を実装し、経営者の意識と行動の変容を促す
- 広報活動により、企業の SDGs の取組を加速させる
- これらの活動から、今後の取組の方向性についてとりまとめる

1.2. 事業の内容

(1) SDGs 経営の実装のためのワークショップの開催

地域の中小企業が経営に SDGs を導入・実装するための具体的な方法を学び、実装するための素地を作っていくためのワークショップを開催した。

(2) SDGs 経営を推進するためのシンポジウムの開催

山陰地方において SDGs を経営に活かす機運醸成を目的として、SDGs と経営に関するトレンドについて学ぶ機会となるシンポジウムを開催した。

(3) SDGs に関するセミナーの開催

フェムテックをテーマとして、女性が働きながら抱える健康問題に対する意識や理解を深めることで、企業や自治体の経営戦略に取り入れることのメリットや、企業や自治体で取り入れている事例の紹介を通じ、誰もが働きやすい労働環境を構築することを目的としたセミナーを開催した。

(4) 事業報告書の作成

実施内容及び今後の SDGs 経営推進にあたって必要な事項をまとめた報告書を作成した。

1.3. 実施スケジュール

下表のスケジュールで事業を実施した。

図表1 実施スケジュール

		10月	11月	12月	1月	2月	3月
(1) SDGs 経営 の実装のため のワークショ ップの開催	企画						
	プログラム内容 の検討						
	ワークショップ の開催						
	ワークショップ 開催結果まとめ						
(2) SDGs 経営 を推進するた めのシンポジ ウムの開催	講演者の選定						
	会場の選定						
	シンポジウムの 開催						
	シンポジウム実 施結果まとめ						
(3) SDGs に関 するセミナー の開催	講演者の選定						
	会場の選定						
	セミナーの開催						
	セミナー実施結 果まとめ						
(4) 事業報告 書の作成	事業報告書の作 成						

2. 中国地域における SDGs 経営推進事業

2.1. SDGs 経営の実装のためのワークショップの開催

地域の中小企業が経営に SDGs を導入・実装するための具体的な方法を学び、実装するための素地を作っていくためのワークショップを開催した。

(1) プログラムの企画

ワークショップの講師は日本能率協会コンサルティングが担当することとし、ワークショップでは日本能率協会コンサルティングのカードゲーム『サスマネ』を活用することとした。

また、全2回のワークショップとし、1日目にSDGsに対する理解を深め、2日目に企業の方針を検討できる形でプログラムを企画し、参加企業を募った。

図表2 ワークショップ開催の案内

SDGs 経営の実装のためのワークショップ開催のご案内

経営にSDGsを導入・実装するための具体的な方法を学び、実装するための素地を作っていくためのワークショップを開催します。

ワークショップでは、1日目にSDGsゲーム“サスマネ”を活用し、理屈だけでなく体感としてSDGs実装の必要性を学んでいただきます。そして、自社で何ができるのかを検討し、2日目に今後何を実践するのか検討していただきます。

【開催日】
1日目：2022年 1月27日（金）13時半～17時
2日目：2022年 2月16日（木）13時半～17時 ※2日間セットとなっておりますので、両日ともご参加ください。

【開催場所】
中国経済産業局 第1会議室（広島市中区上八丁堀6番30号 広島合同庁舎2号館）

【講師】
株式会社日本能率協会コンサルティング S X 事業本部 サステナビリティ経営推進センター チーフ・コンサルタント 丹羽 哲夫

【タイムスケジュール】

1日目		2日目	
時間	プログラム	時間	プログラム
13:30-13:40	はじめに	13:30-13:40	はじめに
13:40-14:15	【講義】SDGsの意義	13:40-14:10	【演習】事後課題の共有と追記
14:25-16:25	【演習】SDGsゲーム サスマネ	14:10-16:40	【演習】Wouldワーク 私たちが実践したいこと
16:30-16:50	【演習】気づきの振り返り	16:40-16:50	【演習】気づきの振り返り
16:50-17:00	まとめと次回のアナウンス	16:50-17:00	まとめ

【宿題】
Couldワーク
私たちが出来る事

©2022 JMA Consultants Inc.

カードゲーム SDGs を楽しく学んでみませんか？

サスマネ
Sustainable Management

【ゲームの目的】
プレイヤーは企業経営者となり、経営企業に求められる課題を解決し、SDGsへの理解を深め、社会貢献を促す。

【ゲームのルール】
ゲームは2人から4人でプレイ可能。ゲームの進行は、プレイヤーの順番で行われる。

【ゲームの時間】
約30分～1時間（ゲームの進行状況により変動）

【ゲームの料金】
2,500円（税別）
※送料別（送料は別途）

【お問い合わせ先】
中国経済産業局 第1会議室 2号館 202号室
〒730-0827 広島市中区上八丁堀6番30号 広島合同庁舎2号館
TEL: 082-251-1111 FAX: 082-251-1112

【お問い合わせ先】
中国経済産業局 第1会議室 2号館 202号室
〒730-0827 広島市中区上八丁堀6番30号 広島合同庁舎2号館
TEL: 082-251-1111 FAX: 082-251-1112

**SDGs 活動と事業拡大をどう両立させるか？
「おもしろく・楽しく・真剣に」学べます**

SDGs を自分ごととして理解し、事業拡大・経営戦略として社会に役立てていくことが求められています。

SDGs カードゲーム「サスマネ」は「おもしろく・楽しく・真剣に」をキーワードに、ゲームを通して SDGs と事業拡大の両立を学ぶことができます。同時に、ビジネス拡大や事業拡大の課題を共有し、経営者同士のネットワークを構築し、社会貢献の促進に役立てることができます。

【ゲームの目的】
プレイヤーは企業経営者となり、経営企業に求められる課題を解決し、SDGsへの理解を深め、社会貢献を促す。

【ゲームのルール】
ゲームは2人から4人でプレイ可能。ゲームの進行は、プレイヤーの順番で行われる。

【ゲームの時間】
約30分～1時間（ゲームの進行状況により変動）

【ゲームの料金】
2,500円（税別）
※送料別（送料は別途）

【お問い合わせ先】
中国経済産業局 第1会議室 2号館 202号室
〒730-0827 広島市中区上八丁堀6番30号 広島合同庁舎2号館
TEL: 082-251-1111 FAX: 082-251-1112

(2) プログラム内容の検討

1 日目は、冒頭に SDGs の意義として、SDGs の重要性・SDGs の内容・SDGs 推進の企業事例などを説明する。その後、日本能率協会コンサルティングの体験型 SDGs カードゲーム『サスマネ』を使用して、事業活動と SDGs の両立をどのように進めるべきなのかを検討する。最後に本日の振り返りをしつつ、自社としてどのような取組みができそうなのか議論する形とした。

図表 3 ワークショップ 1 日目のタイムスケジュール

時間	実施事項
13:40-14:15	【講義】SDGs の意義
14:15-14:40	ゲームの説明
14:40-16:25	ゲーム実施
16:25-16:35	休憩
16:35-16:40	振り返り演習の説明
16:40-16:50	振り返り演習&相互共有
16:50-17:00	まとめと次回のアナウンス

2 日目は、1 日目以降に検討した自社でどのような取組みができることを踏まえて、改めて自社としてどのような取組みをしたいのか、ビジョン・貢献対象・ありたい社会について議論する形とした。

図表 4 ワークショップ 2 日目のタイムスケジュール

時間	実施事項
13:40-14:05	【演習】事後課題の共有と練り上げ
14:05-14:40	【演習】ビジョンの展開 個人検討 10 分 グループ検討 25 分 混合チームの場合 個人検討 25 分 共有・意見交換 10 分
14:40-14:50	休憩
14:50-15:25	【演習】貢献対象の設定 個人検討 10 分 グループ検討 25 分 混合チームの場合 個人検討 25 分 共有・意見交換 10 分
15:25-16:15	【演習】ありたい社会・顧客像のデザイン グループ検討 50 分 混合チームの場合 個人検討 35 分 共有・意見交換 15 分
16:15-16:25	休憩
16:25-16:35	検討結果の共有 代表チームより
16:35-16:50	振り返り演習&相互共有
16:50-17:00	まとめ

(3) ワークショップの開催

ワークショップには地域未来牽引企業4社から参加申込があったものの、コロナ感染や雪の影響により急遽参加できなくなった企業があり、2社のみの参加となった。

図表5 参加者一覧

食品物流業 4名
工作機械メーカー 4名
建設業・・・大雪の影響で会場まで来られない為、不参加
自動車部品メーカー・・・参加者がコロナに感染した為、不参加

1日目は、体験型SDGsカードゲーム『サスマネ』の実施を中心に、SDGsの検討と事業活動の両立をどのように行うべきかを学んだ。

図表6 ワークショップ1日目風景写真



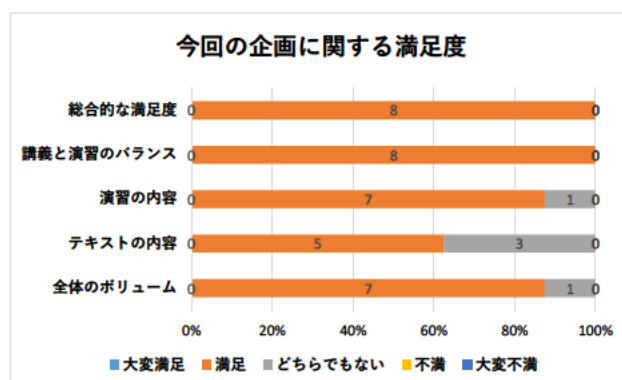
2日目は、SDGsへの対応として企業のビジョンや実現したい社会などを検討した。

図表7 ワークショップ2日目風景写真

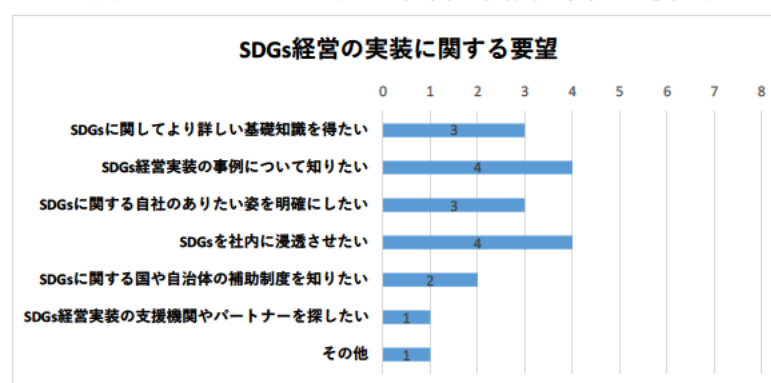


2日間のワークショップの終了後に今回の企画に対するアンケートを実施した。(別紙1参照)
 企画に対する満足度は高く、参加者のほとんどが満足と回答した。SDGs経営の実装に関する要望では、実装の事例や社内への浸透方法についての回答が多かった。企画形式については、社内でカードゲームを実施したい、他企業との交流をしたいとの回答が多かった。

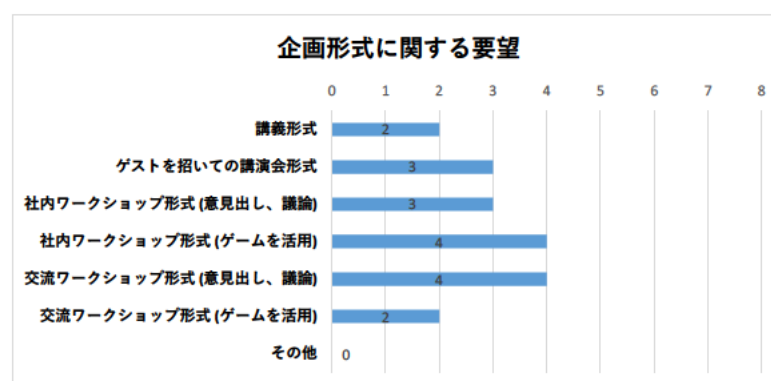
図表8-1 アンケート（企画に対する満足度）



図表8-2 アンケート（SDGs経営の実装に関する要望）



図表8-3 アンケート（企画形式に対する要望）



また、ワークショップを開催後1ヶ月たった時点で参加企業にヒアリングを行った所、下記の意見を聞くことができた。

ワークショップについては、SDGsは自社に関係ないと思っていたが事例を聞いて関係ない訳ではないと知ったという意見がある一方で、SDGsを利益に結び付ける事例を複数紹介して欲しかったという意見もあった。

また、ワークショップ後に、『課内で検討結果を共有した』、『来期計画の立案においてどの部分がSDGsに該当するのか整理した』などを自社で取り組んでいるという声を聞いた。

一方で、企業内での短期的な課題への取組みが優先されてしまい、SDGsに対して積極的に取り組むことは今後難しいと感じられている。もっと経営層に関心を持ってもらうことや、収益につなげるモデルを描くことが必要とされている。

2.2. SDGs 経営を推進するためのシンポジウムの開催

山陰地方において SDGs を経営に活かす機運醸成を目的として、SDGs と経営に関するトレンドについて学ぶ機会となるシンポジウムを開催した。

(1) 講演者の選定

SDGs と経営をとりまく最新の動向や事例から共通認識を持ち、参加企業とともに SDGs と経営について考える為に、基調講演（SDGs の潮流）として講演者 2 名、企業の事例発表ならびに金融機関の取組みとして講演者 2 名を選定した。

図表 9 講演者一覧

基調講演	合同会社 持続可能	CEO 兼 CSV 経営デザイナー 川井 健史 氏
	株式会社日本能率協会コンサルティング	代表取締役社長 小澤 勇夫 氏
企業の事例発表	株式会社安成工務店	代表取締役社長 安成 信次 氏
金融機関の取組み	株式会社山陰合同銀行	地域振興部長 井上 亮氏

図表 10 シンポジウムのチラシ

中国経済産業局 令和 4 年度地域経済産業活性化対策調査事業（中国地域における SDGs 経営推進事業）

SDGs 経営シンポジウム

最新動向と事例から学ぶ、
企業価値向上と地域課題解決を目指して

地域の中小企業における SDGs の認知度は飛躍的に高まっているものの、実践への動きはまだ限定的といわれています。
しかし、脱炭素、ビジネスと人権、ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョンと、地域やビジネスを取り巻く環境は劇的に変化しています。
このシンポジウムでは、SDGs と経営をとりまく最新の動向や事例から地域の皆様と共通認識を持つことにより、皆様とともに SDGs と経営について考えてまいります。

令和 5 年 3 月 1 日(水)
13:30~16:20
(開場 13:00、Web 開始 13:15)

【会場】 鳥取県立産業交流館(くびきメッセ) 小ホール
(鳥取県松江市宇賀南 1 丁目 2-11)
【オンライン】 Microsoft Teams
定員 【現地】100 名、【オンライン】150 名
※定員に達し次第、受付を終了予定

第 1 部 SDGs の潮流
開催挨拶 (13:30~13:40)
中国経済産業局 総務企画部長 吉田 勇人
講演 1 (13:40~14:40)
「SDGs への取り組みは、何故、企業価値を向上させるのか」
合同会社 持続可能 CEO 兼 CSV 経営デザイナー 川井 健史 氏
講演 2 (14:40~15:10)
「日本らしきサステナビリティ経営とは」
株式会社日本能率協会コンサルティング 代表取締役社長 小澤 勇夫 氏

第 2 部 地域企業の取組み
講演 3 (15:20~15:50)
「YASUNARI! グループの SDGs への取組み (仮)」
株式会社安成工務店 代表取締役社長 安成 信次 氏
講演 4 (15:50~16:20)
「お取引先と共につくる持続可能な地域社会 ぐうぎんグループの取組 (仮)」
株式会社山陰合同銀行 地域振興部長 井上 亮 氏

主催：中国経済産業局
協力：中国財務局

【講演者プロフィール】

合同会社持続可能 CEO 兼 CSV 経営デザイナー
SDGs 専門総合ビジネススクール “StartSDGs” 校長 川井 健史 氏
リクルートグループで事業企画、新規事業立ち上げなどに従事したのち、Ruby エンジニアを中心とした派遣/紹介事業を営むベンチャーを起業。
上場企業に事業を譲渡した後、東証プライム上場企業 2 社での人事責任者を経て現職。企業への SDGs や人的資本経営の導入支援コンサルティングに携わりながら、SDGs とビジネスに特化したビジネススクール “StartSDGs” の校長を務める。

株式会社日本能率協会コンサルティング 代表取締役社長 小澤 勇夫 氏
1989 年に JMAC に入社。生産・SCM 領域におけるコンサルティング活動を中核としながら、クライアントの経営革新を支援してきた。コンサルティング部門の各部門長を歴任後、2019 年 6 月に常務取締役、21 年 4 月に代表取締役社長に就任。
現場から会社と社会を繋げる「JMAC MOVE as one」を掲げ、会社およびクライアントの社会価値向上に向けた発信・アプローチを行っている。

株式会社 安成工務店 代表取締役 安成 信次 氏
(一社) JB 全国工務店協会 副会長、NPO 環境共創住宅 地域の会 理事長
1989 年、父業を継ぎ空室敷地・給湯・換気・排水等に利用する 30M 平方メートルのグループ入り、環境共創住宅を完成させる。
以降、新聞紙をリサイクルしたセルロースファイバー断熱材と自然乾燥した国産材を用いたデザイン性の高い地域型住宅を提供している。
住宅産業を工業化の流れから従来の家づくりへ変革することで、職人育成、健康環境や防災に貢献する活動を行っている。

株式会社山陰合同銀行 地域振興部長 井上 亮 氏
1996 年入社、2016 年 7 月本店営業部次長、2019 年 6 月西宮支店長を経て 2022 年 7 月より地域振興部長。兵庫県を中心とした関西エリアでの環境経営推進であり、中小企業向けに融資、コンサルティング業務を中心に銀行を業とする活動を開始。当地におけるシェア拡大およびビジネス向上に貢献。
現在その豊かな経験を生かし、地方創生の実現のため積極的に活動中。

↓お申込みは下記↓ 申込締切 2 月 26 日(日)

<https://mm-enquete-cnt.meti.go.jp/form/pub/chugoku-soumukikaku/20230301>

【会場参加の方へ】
・お申込み受領後、2 月 27 日(月) までにご案内メールをお送りします。
【オンライン参加の方へ】
・お申込み受領後、2 月 27 日(月) までに招待メールをお送りします。
・参加者の皆様は通信環境の状況により中断される可能性があります。

【留意事項】
・やむを得ない事情で、講演内容の変更・シンポジウムの中止になる可能性があります。
・お申込み時に記載いただいた個人情報は、本シンポジウムの運営の目的にのみ使用いたします

お問い合わせ先 (中国経済産業局委託先)
株式会社日本能率協会コンサルティング R&D コンсалティング事業本部 担当：野田
E-mail: chugoku@jmac.co.jp TEL: 080-3258-0695

(2) 会場の選定

コロナ感染症対策やオンライン同時開催を考慮し、島根県立産業交流会館(くにびきメッセ) 小ホール(島根県松江市学園南1丁目2-1)を会場として選定した。

(3) シンポジウムの開催

令和5年3月1日(水)13時30分より島根県立産業交流会館(くにびきメッセ) 小ホールにて開催すると共に、オンラインで同時配信を行った。現地33名、オンライン112名の計145名にご参加いただいた。

図表 11 当日のタイムテーブル

第1部 SDGsの潮流			
開催挨拶	13:30～13:40	開催挨拶	中国経済産業局 総務企画部長 吉田 秀人
講演1	13:40～14:40	SDGsへの取り組みは、 何故、企業価値を向上させる のか	合同会社 持続可能 CEO 兼 CSV 経営デザイナー 川井 健史 氏
講演2	14:40～15:10	日本らしいサステナビリティ 経営とは	株式会社日本能率協会コンサルティング 代表取締役社長 小澤 勇夫 氏
休憩	15:10～15:20		
第2部 地域企業の取り組み			
講演3	15:20～15:50	YASUNARI グループのSDGs への取り組み	株式会社安成工務店 代表取締役社長 安成 信次 氏
講演4	15:50～16:20	お取引先と共につくる持続可 能な地域社会 ごうぎんグル ープの取組	株式会社山陰合同銀行 地域振興部長 井上 亮 氏

図表12 シンポジウムの開催風景写真



シンポジウムの終了後にシンポジウムに対するアンケートを実施した(別紙2参照)。アンケートでは、『今日の講演を聞いて、皆様が取り組みたい、取り組まなければならないことをお聞かせください』と『その実現に向けた課題をお聞かせください』の2点について意見を伺い、参加者32名から回答を頂いた。

今後取り組みたい点として、企業からは『具体的な取組み内容について検討していきたい』『まずは社員の意識向上に取り組みたい』との意見が多かった。商工会議所や自治体など支援する立場からは、『啓発活動を行いたい』『まずは自ら何が取り組めるのか検討したい』との意見が多かった。

今後に向けた課題としては、企業からは『経営層の理解』『会社全体の意識改革』との意見が多かった。支援する立場からは、『企業の意識改革』との意見が多かった。

まだSDGsに対する企業内外での意識変革は始まったばかりであり、今後継続的な啓発活動をするとともに、人材不足や利益確保など目の前の課題を解決する必要があるという企業も多いことから、伴走型での支援が必要とされていると考えられる。

2.3. SDGs に関するセミナーの開催

フェムテックをテーマとして、女性が働きながら抱える健康問題に対する意識や理解を深めることで、企業や自治体の経営戦略に取り入れることのメリットや、企業や自治体で取り入れている事例の紹介を通じ、誰もが働きやすい労働環境を構築することを目的としたセミナーを開催した。

(1) 講演者の選定

まずはフェムテックについての理解を深める必要がある為、専門家による基調講演と行政ならびに民間企業の先進事例を紹介できるように、下記の講演者を選定した。

図表 13 講演者一覧

専門家の基調講演	一般社団法人日本フェムテック協会	幹事/社会保険労務士 小口 彩子氏
経済産業省の取組	経済産業省	経済産業政策局 経済社会政策室 室長 川村 美穂
行政の先進事例	三原市役所	経営企画課 総合企画係長 清水 逸司氏 保健福祉課 発達支援係長 住廣 香里氏
企業の先進事例	株式会社山口フィナンシャルグループ	人財支援部 副調査役 林田 あゆみ氏
	山陰パナソニック株式会社	代表取締役社長 渡部 幸太郎氏 デジタルヘルスケア部門 部門長 津森 孝史氏

図表 14 セミナーのチラシ

中国経済産業局 令和4年度地域経済産業活性化対策調査事業(中国地域におけるSDGs経営推進事業)

中国地域発！

**企業・自治体のための
フェムテック シンポジウム**

～「みんなゴト」として考える、働く女性の健康課題と経営改革～

場所：広島国際会議場 ダリア2
(広島県広島市中区中島町1-5)

主催：中国経済産業局

【オンラインでの同時配信あり：詳細は裏面】

「フェムテック」に注目が高まっています。女性の健康課題の解決に取り組むことは、従業員の働きやすさやパフォーマンスの向上、さらには組織力・企業価値の向上に繋がります。この解決策のひとつにフェムテックがあります。すでに中国地域でもこの動きが始まっています。本シンポジウムではフェムテックの活用のほか、従業員・職員が活躍するために組織に求められること、具体的な取組事例などを紹介します。どれも安心して働ける環境づくりに関心のある方、ぜひご参加ください。

令和5年
2月3日(金)
開場：13:30
14:00～16:30
ハイブリッド開催
参加費無料

● プログラム

基調講演：
地方におけるフェムテック
～地域がより選ばれるために～

(一社)日本フェムテック協会 幹事/社会保険労務士
小口 彩子 氏

そもそもフェムテックとは何か？を解説しながら、企業経営・自治体経営にとっての重要性を社会保険労務士としてのご経験からお話しします。また女性の健康課題に目を向け始めた企業の取組事例等もご紹介いたします。

～国の施策、企業や自治体の取組のほか、フェムテックの活用事例もご紹介します～

経済産業省の取組	企業の取組①
経済産業省 経済産業政策局 経済社会政策室室長 川村 美穂氏	(株)山口フィナンシャルグループ 人財支援部 副調査役 林田 あゆみ氏
自治体の取組	企業の取組②
三原市役所 経営企画課 総合企画係長 清水 透司氏 三原市役所 保健福祉課 発達支援係長 住廣 香里氏	山陰バナソニック(株) 代表取締役社長 渡部 幸太郎氏 デジタルヘルスケア部門 部門長 津森 孝史氏

■協力：中国財務局、(一社)中国経済連合会、(一社)中国地域ニュービジネス協議会
■展示協力：アルプスアルバイム(株)、(株)ジョア、(株)Deye、(株)BRING 他

↓お申込みはE-mailで↓ 申込締切 1月31日(火)

■お申込み専用メールアドレス
exl-femtech@meti.go.jp

・件名に【フェムテックシンポジウム】とご入力ください
・本文には、以下の内容をご入力し、上記参加申込 E-mail アドレスまでご送付ください。

■法人・団体名
■所属・役職
■氏名
■電話番号
■メールアドレス
■会場参加か または オンライン参加か

【会場参加予定の方へ】
・2月2日(木)までにご案内メールを送付しますので、当日はメールをプリントアウトの上お持ちいただき受付にお渡しいただくか、スマートフォン等の画面を受付にご提示ください。
・現地会場のお申込みが定員約100名に達した場合、お申込みを締め切らせていただきます。

【オンライン参加予定の方へ】
・パソコン、スマートフォン等のモバイル端末を通じて、インターネット経由でリアルタイムにセミナーを受講する形式です。
・本セミナーは、Web会議ツールの Microsoft Teams で実施します。利用に料金はかかりません(通信費を除く)。
・お申込み受領後、2月2日(木)までに招待メールをお送りいたします。
・当日、招待メールに記載のガイダンスに従い、視聴参加ください。
・なお、ご使用のパソコンやモバイル端末のセキュリティ設定ならびにWiFiや有線LANの通信環境により、視聴ができない場合がございます。
・予めご確認いただいた上で、ご参加をお願いします。

【留意事項】
・やむを得ない事情で、講演内容の変更・シンポジウムの中止になる場合がございます。
・お申込み時に記載いただいた個人情報は、本シンポジウムの運営の目的にのみ使用いたします

お問い合わせ先(中国経済産業局委託先)
株式会社日本経済産業協会コンサルティング R&Dコンサルティング事業本部 担当：野田、大崎
E-mail: chugoku@mac.co.jp TEL: 060-3258-0696

(2) 会場の選定

コロナ感染症対策やオンライン同時開催を考慮し、広島国際会議場 ダリア2(広島県広島市中区中島町1-5)を会場として選定した。

(3) セミナーの開催

令和5年2月3日(金)14時より広島国際会議場 ダリア2にて開催すると共に、オンラインで同時配信を行った。現地83名、オンライン162名の計245名にご参加いただいた。

図表 15 当日のタイムテーブル

開催挨拶	14:00～14:10	開催挨拶	中国経済産業局 総務企画部 企画調査課 課長 神田 恭秀
基調講演	14:10～14:50	地方におけるフェムテック～地域がより選ばれるために～	一般社団法人日本フェムテック協会 幹事/社会保険労務士 小口 彩子氏
講演①	14:50～15:05	経済産業省の取組	経済産業省 経済産業政策局 経済社会政策室 室長 川村 美穂
休憩	15:05～15:15		
講演②	15:15～15:35	自治体の取組	三原市役所 経営企画課 総合企画係 係長 清水 逸司氏 三原市役所 保健福祉課 発達支援係 係長 住廣 香里氏
講演③	15:35～15:55	企業の取組①	株式会社山口フィナンシャルグループ 人財支援部 副調査役 林田 あゆみ氏
講演④	15:55～16:15	企業の取組②	山陰パナソニック株式会社 代表取締役社長 渡部 幸太郎氏 山陰パナソニック株式会社 デジタルヘルスケア部門 部門長 津森 孝史氏

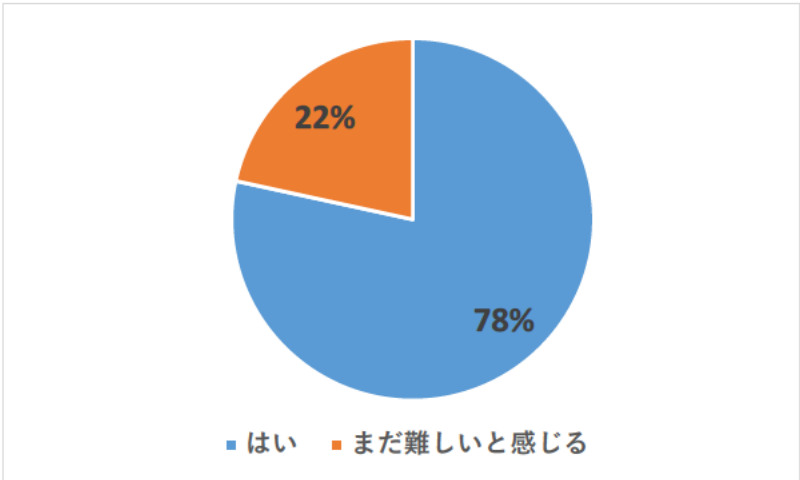
図表16 セミナーの開催風景写真



セミナー参加者に対するアンケート(別紙3参照)では、『①フェムテックや研修を活用し、女性が活躍できたり、1人1人が働きやすい社会や組織にしたい方』と『②フェムテック関連商品を提供している、または新たに提供したい方』に分けて回答を頂いた。

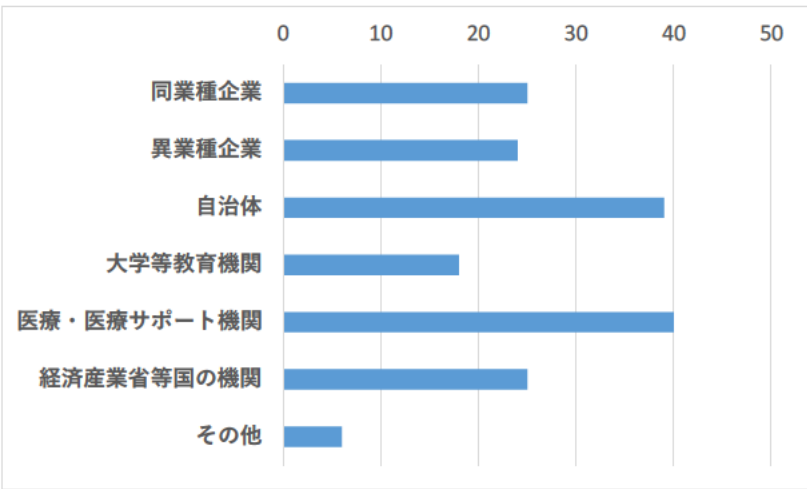
①フェムテックや研修を活用し、女性が活躍できたり、1人1人が働きやすい社会や組織にしたい方
今回のセミナーにて『フェムテック等の導入や女性の健康課題への対応など、女性が働きやすい職場環境に向けて何か取り組みたい』と思った参加者が約8割と大半を占めたものの、取り組むにあたっては、『社内の意識改革』や『経営層の理解』が課題との意見も多かった。

図14-1 今後の取組みについて (n=104)



また、『取り組むにあたって、協力や連携したい機関』としては、医療・医療サポート機関や自治体との回答が多かった。

図14-2 協力や連携したい機関について (複数回答可、n=104)



『誰もが働きやすい職場づくりのために、あったらいいなと思う製品やサービスは何ですか?』という設問には、以下のような回答が多くあった。

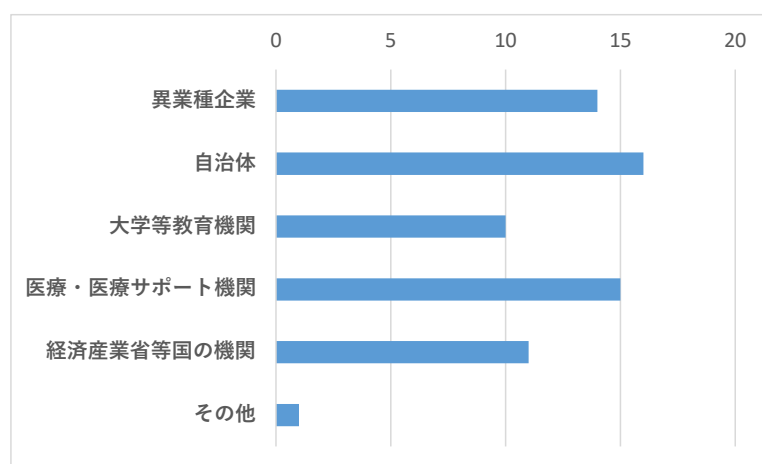
- 困りごとを気軽に相談できる先
- 健康状態を知るツールや機械
- 知識や取り組みなどを学べるセミナー、研修
- 取り組みに対するアドバイス
- 担当者間の交流
- 検定、資格
- ストレスや不調を軽減させる製品やサービス

②フェムテック関連商品を提供している、または新たに提供したい方

『フェムテック市場を拡大、または市場へ参入していく上での課題』として、認知度の向上やリテラシーの向上をあげる企業が多かった。

また、『取り組むにあたって、協力や連携したい機関』としては、自治体や医療・医療サポート機関との回答が多かった。

図14-3 協力や連携したい機関について（複数回答可、n=28）



3. まとめ

3.1. 実施結果

(1) SDGs 経営の推進（ワークショップの開催）

参加者がメモを取る姿も見られ、積極的にご参加いただきました。ゲームやワークを通じて「SDGs の事例を学ぶ」「考えていることを表出化させて目線を合わせる」場にできたと考えられる。今回は自社を題材に議論したことから、1 企業につき複数人での参加を呼びかけたが、複数人での参加がハードルになっている可能性が高い。その為、個人で参加して頂き、他企業とともにグループワークを行うワークショップ形式の方が効果的に参加者を集められると言える。

(2) SDGs 経営の推進（シンポジウムの開催）

今回のシンポジウムは、「SDGs と事業の関連性を可視化すること」「それをビジョンとして掲げ全社で推進する企業が経済的な持続性をもつこと」そして「実際に成果に結びつけている企業事例」という 3 段階での講演であり、SDGs 推進が芳しくないと想定した中国地方の企業にとっても、自分たちが取組む意義と方法論を合わせて理解いただく良い場になったと考えられる。今後は、SDGs 宣言のような開示と合わせて、宣言に基づく各種取組みの実行を促す仕組みや具体事例の共有の場を継続的に提供していくことが重要になる。

(3) SDGs に関するセミナーの開催（フェムテック）

全国的に見ても、地域でフェムテックを大々的に取り上げたシンポジウムは珍しい中で集客が多く、関心が高いことを知れたと同時に「みんな関心があるんだ」という事実を参加者間で共有できた点が有益であった。産官学それぞれが関心を持っていることが共有できたので、これらを有機的に連携していくことや、女性活躍や女性特有の悩みを解決していくための真のニーズが今後の課題である。

3.2. 今後に向けた提言

(1) SDGs 経営の推進

①SDGs に対する理解醸成が必要な企業

SDGs の目標は 17 と多岐に渡り、企業の事業特性、企業規模や経営方針等により受け止め方もさまざまであるため、企業が取り組む意義や効果について、先進的もしくは先導的な取り組みに関する事例紹介のセミナー・シンポジウムを開催することで各企業の理解を深めることができる。

しかしながら、県単位等で地場産業が異なり、各地域に即した取り組みの紹介が有効であるため地域別の企画・開催が必要と思われる。

また、SDGs へ実際に取り組む企業を増やすためには、関心が高い、もしくはすでに検討あるいは取り組みを始めている積極的な企業を対象とした経営者ネットワークを形成することも効果的である。

②SDGs 経営を検討したい企業

SDGs 経営を検討し始めた企業の取り組み課題には「マテリアリティの設定」「SDGs の浸透」があげられる。どちらの課題に対してもワークショップ形式の取り組みが有効である。

マテリアリティの設定は社内の多様なメンバーで議論しながら落とし込んでいく為、考え方のインプットと議論を合わせたワークショップ形式が有効である。

また、SDGs の浸透も同様にワークショップが有効である。講演などで理解醸成を図ることも有効だが、自分事になりにくい傾向がある。“サスマネ”といったゲームを活用することで「自然と前のめりになる」「自分も主体的に考える」場を作ることが重要であり、ゲームはラポール(共通体験)形成がしやすく、部門を超えて共通議論をする雰囲気づくりにもなる。SDGs の浸透では学習に重きを置くのではなく、体験に重きを置いたワークショップが効果的である。

③SDGs 経営を推進したい企業

SDGs 経営を推進していく段階になった企業の課題は「計画的な取り組みの推進」があげられる。マテリアリティは設定したものの「計画が具体化されていない」「各部門の計画に落とし込まれていない」場合は推進されない。この課題に対しては個別企業に対しての伴走支援が有効である。マテリアリティや推進体制は個社ごとに異なり、オープンな場では語れない内容も出てくるため、個社ごとに伴走する支援が企業側も受け入れやすく効果的である。

(2) フェムテックの取り組み

①フェムテックの導入を検討する企業

フェムテック関連の商品・サービスを導入するだけでは不十分であり、社内における制度変更や社員の意識変革も併せて実施する必要がある。その為には、導入検討の担当者だけで取り組むのは難しく、会社全体で取り組む為に経営層の理解を得ることや社員全員を巻き込む活動にする

ことが求められる。また、個別企業の伴走支援により成功モデルを構築していくことや、企業間で事例を共有できるような企業間ネットワークの構築が重要であると考えられる。

②フェムテック関連商品・サービスを提供する企業

商品・サービスを提供する企業においては、導入事例を増やすことが重要であるものの、どの企業でどのようなニーズがあるのか把握しづらいと考えられる。商品・サービスの提供開始前後において、実証的に取り組んでもらえる企業や自治体とのマッチングを支援することが有益と考えられる。

(別紙 1) SDGs 経営の実装のためのワークショップ アンケート

SDGs経営の実装のためのワークショップ アンケート					
会社名					
部署		役職			
お名前					

設問① 今回の企画についてご記入ください。(該当欄に ☒ をご記入ください)

	良い ← 評価レベル → 悪い				
	大変満足	満足	どちらでもない	不満	大変不満
全体のボリューム					
テキストの内容					
演習の内容					
講義と演習のバランス					
総合的な満足度					

設問② 上記の回答理由やその他ご意見・ご感想をお聞かせください。

設問③ SDGs経営の実装に関連して、ご希望をお聞かせください。(複数選択可)

☐ SDGsに関してより詳しい基礎知識を得たい
 ☐ SDGs経営実装の事例について知りたい
☐ SDGsに関する自社のありたい姿を明確にしたい
 ☐ SDGsを社内に浸透させたい
☐ SDGsに関する国や自治体の補助制度を知りたい
☐ SDGs経営実装の支援機関やパートナーを探したい
☐ その他

設問④ SDGs経営の実装に関連して、企画形式のご希望をお聞かせください。(複数選択可)

☐ 講義形式
 ☐ ゲストを招いての講演会形式
☐ 社内ワークショップ形式(意見出し、議論)
 ☐ 社内ワークショップ形式(ゲームを活用)
☐ 交流ワークショップ形式(意見出し、議論)
 ☐ 交流ワークショップ形式(ゲームを活用)
☐ その他

ご協力ありがとうございました。

(別紙2) SDGs 経営シンポジウム 参加者アンケート

SDGs経営シンポジウム 参加者アンケート



SDGs経営シンポジウムにご参加いただきありがとうございました。
アンケートへご協力をお願いします。(右上QRコードからもご回答頂けます)
皆様のお考えをお聞きし、今後の私たちの政策の参考にさせていただくことが目的です。
ご面談をお願いするかもしれませんがご了承くださいませ。

☐ QRコードからご回答頂いた方はチェック (以下記入不要)

法人・団体名		お名前	
--------	--	-----	--

今日の講演を聞いて、皆様が取り組みたい、取り組まなければならないことをお聞かせください

--

その実現に向けた課題をお聞かせください

--

今後、サステナビリティと経営という観点で政策やセミナーなどの情報をメールで発信したいと考えております。ご賛同いただける場合は、以下に記載ください。

メールアドレス	@
---------	---

ご協力ありがとうございました

【個人情報のお取り扱い】

ご提供いただいた個人情報は、事務局（中国経済産業局・株式会社日本能率協会コンサルティング）及び講師が本事業「SDGs経営シンポジウム」の運営においてのみ使用し、その保護について万全を期するとともにご本人の同意なしに事務局および講師以外の第三者に開示、提供することはございません。

中国地域フェムテックシンポジウム 参加者アンケート

Q1. あなたの立場を教えてください。(該当欄に ✓ をご記入ください)

- ☐ ①フェムテックや研修を活用し、女性が活躍できたり、1人1人が働きやすい社会や組織にしたい
☐ ②フェムテック関連商品を提供している、または新たに提供したい
☐ ③その他 |

※Q1で、①または③と回答した方へ質問です。

Q2-1. あなたの組織の中で「フェムテック等の導入」や「女性の健康課題への対応」など、女性が働きやすい職場環境に向けて何か取り組みたいと思いませんか？

- ☐ はい ☐ まだ難しいと感じる

Q2-2. 取り組むにあたり、どのような課題があると感じますか？

|

Q2-3. 取り組むにあたり、協力や連携したい機関はありますか？(複数回答可)

- ☐ 同業種企業 ☐ 異業種企業 ☐ 自治体 ☐ 大学等教育機関
☐ 医療・医療サポート機関 ☐ 経済産業省等国の機関
☐ その他 |

Q2-4. 誰もが働きやすい職場づくりのために、あったらいいと思う製品やサービスは何ですか？

|

※Q1で、②または③と回答した方へ質問です。

Q3-1. フェムテック市場を拡大、または市場へ参入していく上で、どのような課題があると感じますか？

|

Q3-2. 今後、フェムテック市場を拡大、または市場へ参入していく上で、協力や連携したい機関はありますか？(複数回答可)

- ☐ 同業種企業 ☐ 異業種企業 ☐ 自治体 ☐ 大学等教育機関
☐ 医療・医療サポート機関 ☐ 経済産業省等国の機関
☐ その他 |

Q4. 今後、「フェムテック」や「女性の健康課題」についての意見交換や情報提供を希望しますか？

- ☐ はい ☐ いいえ

※「はい」と回答した場合、申込時の連絡先へのご連絡や、メールにて情報提供させていただくことがあります。
ご了承いただける方は、下記「法人・団体名」、「氏名」の記載をお願いします。

法人・団体名		お名前	
--------	--	-----	--

本シンポジウムについて、ご意見やご感想がありましたらご記入ください。

|

ご協力ありがとうございました。